

令和元年度林業労働実態調査の概要

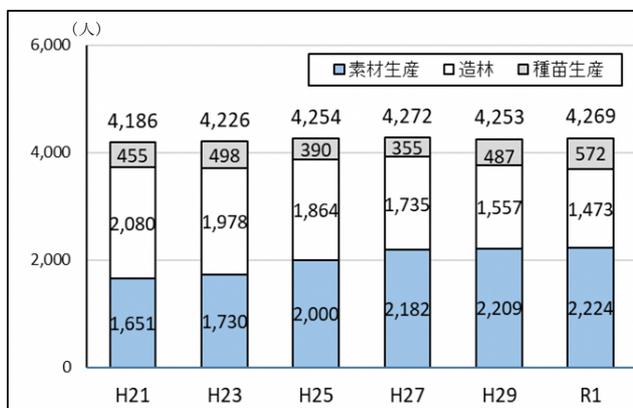
1. 調査の目的

本道で素材生産や造林、種苗生産を行っている林業事業体を対象として、道内における林業労働者の実態を把握することにより、林業労働者の安全衛生の確保、技術・技能の向上、福利厚生充実など、今後の林業労働対策の施策立案や統計に活用することを目的とする。

2. 調査結果の概要

(1) 林業労働者数の推移

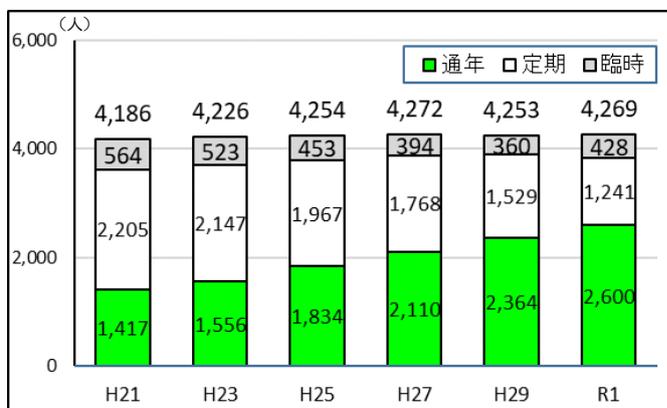
- 林業労働者数は 4,269 人で、人工林が利用期を迎え、伐採などの事業量が増加する一方で、機械化などによる作業効率の向上が進んでおり、概ね横ばいで推移。



＜事業種区分＞
 素材生産： 林内又は山元土場における素材（丸太）の生産
 造林： 地拵、植付、下刈等
 種苗生産： 苗木の生産

(2) 雇用形態別林業労働者数の推移

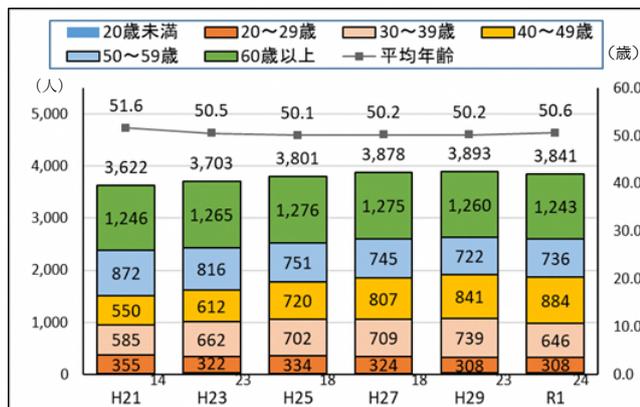
- 通年雇用者は 2,600 人で、年間を通して伐採など林業に従事する通年雇用が増加し、労働者数全体の 61% を占める状況。



＜雇用形態区分＞
 通年雇用： 年間を通じた雇用
 定期雇用： 被保険者期間が通算して 1 年未満 6 ヶ月以上の雇用（一般的には季節労働者と呼ばれる）
 臨時雇用： 通年、定期以外で一時的な雇用

(3) 年齢別林業労働者数の推移

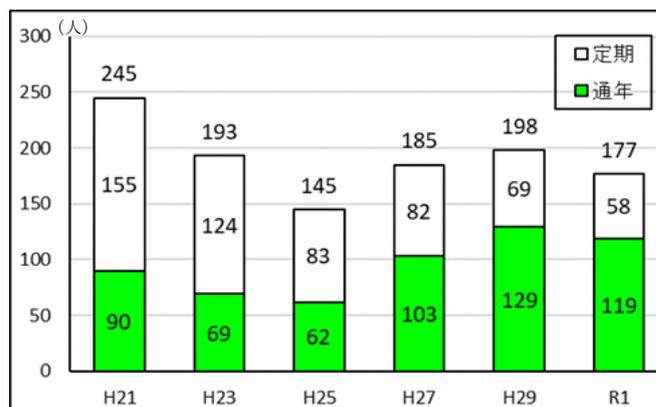
- 平均年齢は 50.6 歳で、10 年間で 1 歳若くなっているものの、60 歳以上の割合は依然として高い状況。



※通年雇用と定期雇用のみ

(4) 新規参入者数の推移

- 新規参入者は 177 人で、前回から減少しているが、通年雇用の割合は 67% に増加。



※通年雇用と定期雇用のみ